



医療、介護などの情報一元化し活用 総務省報告書

総務省はこのほど、スマートプラチナ（SP）社会推進会議の報告書を公表した。医療、介護、健康、生活などの情報を一元化する情報プラットフォームを構築することなどを提案した。

SP社会とは「国民の健康寿命を延ばし、住み慣れた地域で質の高い医療・介護サービスを受けられ、生きがいを持って就労・社会参加できる社会」のこと。2013年5月に総務省のICT（情報通信技術）超高齢社会構想会議が、SP社会を実現するよう提案した。

報告書は、SP社会の実現を加速化させる取り組みとして「医療・介護情報連携基盤の全国展開」

「コミュニケーションロボットを活用した健康づくり」などを挙げ、モデルとして推進するよう求めた。

具体的には、情報プラットフォームで一元化したデータを関係機関が共有・活用することで、病院が変わっても同じ診療が受けられるようにしたり、地域包括ケアシステムを活用できるようにしたりする。

また、異常を感知して通報したり、服薬管理などができたりするコミュニケーションロボットと情報を連携させることで、一人暮らし高齢者の見守りに役立つなどとしている。

（福祉新聞・第2684号 2014年9月15日）



介護保険、566万人が利用 6年連続で最多（2013年度）

厚生労働省が8月7日に発表した2013年度介護給付費実態調査によると、介護保険のサービス利用者は、前年度比22万9,900人増の566万500人となり、6年連続で過去最多を更新した。

2012年度に制度化された定期巡回・随時対応型訪

問介護看護の利用者は、2012年度の約3倍に増えたものの9,600人。同じく複合型サービスも利用者が増えたが、その数は2,600人にとどまった。厚生労働省はこの2つのサービスを普及させる考えだ。

（福祉新聞・第2681号 2014年8月25日）



第17回日本在宅医学会もりおか大会

日 時：2015年4月25日（土）・26日（日）
会 場：マリオス盛岡地域交流センター（岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1）
アイーナいわて県民情報交流センター（岩手県盛岡市駅西通2-9-1）
大会長：木村幸博（医療法人葵会もりおか往診クリニック院長）
テーマ：「生きかた＝逝きかた」を支える在宅医療
内 容：講演、シンポジウム、パネルディスカッション、教育講演、ポスター発表、市民公開講座、ランチョンセミナー、企業展示、懇親会、ほか

申し込み方法：大会ホームページ（<http://www.mhcclinic.jp/zt/>）よりお申し込みください。
事前参加登録：2014年11月4日（月）～2015年2月13日（金）
問い合わせ先：大会事務局
☎ 020-0066 岩手県盛岡市上田1丁目3-10
イースタンキャッスル1F
医療法人葵会もりおか往診クリニック チームもりおか
Tel：019-681-7653 Fax：019-623-5566
E-mail：mzt@aria.ocn.ne.jp